



■ 2024. 2. 23 「教育フォーラム in 中津・大分」

2月23日（祝）、未来を創る財団、社会・教育研究会の2年かけた研究成果、【報告書】「学びによる日本の再構築—これからの学びと人材育成—」を発表した。

150年前「学びによっておのおのその分を尽くし、銘々の家業を営み、身も独立し、家も独立し、天下国家も独立すべきなり」と「学問のすゝめ」を世に出した福沢諭吉の出身地、大分県中津市で発表する趣旨を磯山理事長が説明。

その哲学は、今日の地政学に共通する。

今回のフォーラムは、地元中津だけでなく、近隣地域からの参加も少なくない。

さらに、東京など、遠隔地からも参加いただき、学びが今日の社会的重要課題であることが確認できる。

【主催】一般財団法人未来を創る財団 【共催】大分県中津市・教育委員会

未来を創る財団 磯山理事長の挨拶



開催地 大分県中津市 奥塚市長ご挨拶



奥塚市長は、未来を創る財団が中津市を研究発表の地としたことを歓迎された。

さらに、いま行っている「不滅の福沢プロジェクト」を持続的に発展させることが学びの町おこしに繋がると呼びかけられた。

会場の中津市立小幡記念図書館（研修室）は、補助椅子も動員の盛況になった。

終了後のアンケート調査からも、参加者の意識が伝わってきた。

研究メンバーでもある上野雄史氏（静岡県立大学教授、理化学研究所AIPセンター客員研究員）はキーノートで、今年のダボス会議でも、学び直しは重要課題の1つであると述べた。

キーノート

上野雄史氏

静岡県立大学教授 理化学研究所 AIP センター客員研究員



リスキリングが日本では言葉として定着しているが、ダボス会議でも使われているアップスキリングの方がむしろ適切である、と指摘。

スキリングの先進事例として、シンガポールの「スキルズフューチャー」プログラムを紹介。

シンガポール政府に取材した知見から、今後、日本でもアップスキリングを推進していくことが重要になると報告。

さらに、当地で新規分野に取り組む地元企業の事例も紹介しつつ、新たな知見の獲得に積極的にとりくむべきと述べ、研究会としても新たな課題を示した。

研究発表「学びによる日本の再構築」 — これからの学びと人材育成 —

三樹蘭氏

株式会社明治書院 代表取締役社長

報告書は、以下の3部から構成されている。

第1部 なぜ社会人の学びが喫緊の課題なのか

第2部 求められる人的構造の転換

第3部 学びと人材育成による日本の再構築

三樹氏は、これからの学びの目標として、特に、社会の課題である次の2点を掲げた。

「求められる人的構造の転換」

1. 新たなテクノロジー知識を獲得
2. 専門性を高める

従来型の経験による属人的な習得でなく、学ぶこと、教えることによって、



知識と専門性を広く共有し、社会全体の付加価値向上を図る必要性を指摘した。

さらに、以上の課題を踏まえた提言では、個人の視点と組織（大学・企業）の視点の両面から提言を示し、とくに、大学と企業が果たすべき重要な社会的役割を強調した。

『提言』～学びと人材育成による日本の再構築～

大学の課題：

1. 社会からの要請への対応：専門分野への人的能力育成
2. 企業との連携：経営知識の体系化と研究体制のマネジメント

企業の課題：

1. 求める能力・スキルの明示すること
2. 人的資本経営を展開し、社員にリスクリングの機会を積極的に提供することを求めた。

【報告書】「学びによる日本の再構築—これからの学びと人材育成—」

<https://theoutlook-foundation.org/archives/1754>

【アーカイブ】【ご意見・ご感想】 <https://theoutlook-foundation.org/archives/1788>

トークセッション：教育と起業家精神

福山 敦士氏

連続起業家 ビジネス教育研究家 香川オリーブガイナズ球団(株)代表取締役社長

磯山 友幸氏

未来を創る財団理事長 千葉商科大学教授 経済ジャーナリスト



福山氏は、新卒でサイバーエージェントに入社後、1年目からグループ会社の起ち上げに参画。25歳でグループ会社の取締役役に就任。営業本部長を兼任。

27歳で独立、株式会社レーザービームを立ち上げ、代表取締役に就任。

2023年プロ野球独立リーグ香川オリーブガイナズ球団をM&A、代表取締役社長に就任。

かたわら「学問をつくる」活動として慶應義塾高校、鎌倉学園高校で講師（ビジネス探求/実践講座）を務める。

学生時代は野球ひと筋。高校時代には甲子園ベスト8。

1989年生まれ、慶應義塾大学環境情報学部卒業。

野球ひと筋、とはいえ、実は経済的に恵まれた環境ではない中で、応援してくれた家族

の分まで働くことを決意したと率直に語った。

その精神は、単に、連続的起業の話ではなく、独立リーグの経営を通じて、さらにその先、柱に掲げるのが教育事業。

「社会のリーダーを輩出する」をコンセプトにオンライン講座「ガイナーズ大学」を開設している。



ビジネスで使える実践的な教育を提供し、起業を志す大学生や社会人が参加する。独立リーグの選手も対象になる。

実践的な教育は、ビジネス探求/実践講座を受けもつ2つの高校の講座でも同じ。

首尾一貫していて、けれんみがない。人がらそのものと言える。

トーク終了後も、参加した高校生たちに囲まれ、真剣な応答が続いていた。

閉会挨拶

未来を創る財団 前理事長 石坂芳男（元トヨタ副社長）

石坂氏は、理事長の話のとおり、1年半に及ぶ社会・教育研究会の成果と学びの役割を、福澤諭吉先生の故地であるこの地で今日皆さんと共有できて大変喜んでます。

この成果は、中津ならびに近隣の皆さまにとどまらず、広く日本各地域で共有いただくよう、関係者とともに努力を重ねて参りたいと思います、と述べ閉会した。

